

科 目 名	音楽研究	普通科選択 3年次・3単位
目 標	・楽譜や音楽の基礎知識を理解して、より深みのある表現（歌唱・演奏）が出来る。 ・鑑賞を通して、音楽を感じる力とその表現力、また、音楽文化についての知識をより深める。	
位 置 づ け	・歌唱（独唱・合唱）、器楽演奏（アルトリコーダー）、鑑賞（作曲家の生涯と作品）、楽典（楽譜の基礎知識・楽曲の構成）を通して、音楽Ⅰ・音楽Ⅱをより発展させた内容とする。	

■使用する教材	■学習する単元とおおよその時期
・教科書	・楽典【年間を通して】・器楽演奏【6～8月】
・音楽ノート	・鑑賞【年間を通して】
・課題プリント ほか	

■授業の流れ、予習・復習を含めた学習方法
・歌唱では、発声練習を用いて、個々の技術力や感性をより磨き、豊かな声で歌唱できるよう取り組む。 ・表現（歌唱や器楽）分野では、基礎練習から楽曲演奏まで段階的に技術力を磨けるよう取り組む。 ・鑑賞分野では、作曲家の生涯を振り返り、作品と時代背景との結びつきを探究し幅広く音楽文化に触れる。各分野単元において確認テストを実施し、理解状況を把握する。

■観点別評価について			
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	A 【知】様々な表現形態による演奏表現の特徴について理解している。【技】姿勢や呼吸などの身体の使い方の技能、他者との調和を意識して演奏する技能を身に付け、表現できる。	各国の楽曲をリズム、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自己のイメージをもってどのように演奏するかについて思いや意図をもっている。	各国の楽曲を二重唱・奏、自分にとっての音楽の存在を再認識することや音楽を幅広く様々な視点から捉えようとするに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。
	B 【知】様々な表現形態による演奏表現を心掛けている。【技】姿勢や呼吸などの身体の使い方の技能を意識して演奏できている。	各国の楽曲をリズム、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じようとしている。	各国の楽曲を二重唱・奏、自分にとっての音楽の存在を再認識することや音楽を幅広く様々な視点から捉えようとしている。
	C 上記が達成できていない	上記が達成できていない	上記が達成できていない
評価の場面	単元テスト 小テスト 課題の提出内容	単元テスト 授業中の発言内容	授業中の参加態度 課題の取組状況